

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年9月30日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2771501083
法人名	医療法人 浩治会
事業所名	グループホームゆめの里
所在地	大阪市東成区大今里2丁目17番16号 (電話) 06-6975-3081

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 21年 9月 11日

【情報提供票より】(平成 21年 6月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 11月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤	10人, 非常勤 6人, 常勤換算 14.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	7階建ての	6階 ~	6階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	74,000~84,000円	その他の経費(月額)	39,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(360,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350円	昼食	450円
	夕食	450円	おやつ	250円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成 21年 6月 25日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	6名	要介護2	4名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	76歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人野中会 東成病院、医療法人公道会、 医療法人大道会 大道病院、下地歯科
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大阪市内にある医療法人が運営するグループホームで老人保健施設とデイケアが併設されています。「1. 誰もがありのままに、その人らしく暮らすことができる施設にします。2. 家庭と変わらない生活をする事ができる施設にします。3. 安心して、楽しく暮らしていただける生活をつくります。4. 人間としての尊厳を守るケアを行います。」をホームの理念として掲げ、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、利用者が安心してその人らしい生活を続けられるよう家族とともに支えています。職員は利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に沿うよう支援し、やさしい雰囲気です。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	前回の外部評価で示された事項について、改善が進んでいます。利用者毎の介護担当者が新様式の「サービス経過記録表」にて、毎月モニタリングの記録を残すようになっていきます。また、利用者は散歩や買い物への外出を毎日2回行うとともに、利用者の状況に応じて見守りによる外出支援を随時行い、普段行けない場所への外出の機会を増やすといった取り組みをして、施設による不安や閉塞感を和らげています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については管理者と職員がミーティングをして完成させ、認識の共有化を図りサービスの具体的な改善に取り組もうとしています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は地域包括支援センター職員、民生委員、利用者、家族の参加のもと、2ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの活動方針や運営状況、行事について説明をし、家族の意見や要望も出されています。地域の消防訓練への参加の計画や地域との交流の深め方についても話し合い相互の理解を深めています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の医療や安全に関わる事項については、必要の都度電話で家族に報告しています。3ヶ月毎のケアプランの家族への説明も丁寧に行われています。季刊の広報紙を家族に送付しています。預り金についても定期的に家族に報告しサインを得ています。家族との面会時やケアプラン説明の時、運営推進会議などで、家族の思いや希望、不満を表せるようにしています。ご意見箱も設置しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者は地域のふれあい喫茶の会や盆踊り、バザーに出席したり、近隣の米屋や八百屋、スーパー、飲食店に行ったりして地元の人と接しています。地域の役割として、いつも散歩する公園で鍵をホームで預かり、保管庫の掃除道具を使って清掃をしています。その他、ボランティアと一緒に歌や落語、バイオリン演奏を楽しむこともあります。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「1. 誰もがありのままに、その人らしく暮らすことができる施設にします。2. 家庭と変わらない生活をするができる施設にします。3. 安心して、楽しく暮らしていただける生活をつくります。4. 人間としての尊厳を守るケアを行います。」をホームの理念として掲げ、家庭的な環境と地域住民との交流の下で利用者が安心してその人らしい生活を続けられるよう家族とともに支えています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例のグループホーム全体会議や各種の委員会、毎日の業務等を通じて理念を共有し、理念に沿った介護サービスの実践に取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	利用者は地域のふれあい喫茶の会や盆踊り、バザーに出席したり、近隣の米屋や八百屋、スーパー、飲食店に行ったりして地元の人と接しています。地域の役割としていつも散歩する公園で、鍵を預かっている保管庫の掃除道具を使って清掃をしています。ボランティアと一緒に歌や落語、バイオリン演奏を楽しむこともあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で示された事項について、改善が進んでいます。利用者毎の介護担当者が新様式の「サービス経過記録表」にて、毎月モニタリングの記録を残すようになっています。また、利用者は散歩や買い物への外出を毎日2回行うとともに、利用者の状況に応じて見守りによる外出支援を随時行い、さらに博物館や植物園など、普段行けない場所への外出の機会を増やすといった取り組みをして、施設による不安や閉塞感を和らげています。自己評価については管理者と職員がミーティングをして完成させ、認識の共有化を図りサービスの具体的な改善に取り組もうとしています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括支援センター職員、民生委員、利用者、家族の参加のもと、2ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの活動方針や運営状況、行事について説明をし、家族の意見や要望も出されています。地域の消防訓練への参加の計画や地域との交流の深め方についても話し合い相互の理解を深めています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の担当者や地域包括支援センター職員と意見交換や相談する機会をもち、サービスの向上に取り組んでいます。事業者連絡会や研修会にも参加しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の医療や安全に関わる事項については、必要の都度電話で家族に報告しています。3ヶ月毎にケアプランについて家族への説明も行っています。季刊の広報紙を家族に送付しています。預り金についても定期的に家族に報告し、サインを得ています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面会時やケアプランについての説明時、運営推進会議などで、家族の思いや希望、不満を表せるようにしています。ご意見箱も設置しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の交代はなく常勤職員の多い職場ではチームワークが保たれ、新人の育成教育も丁寧で職員退職による利用者への影響はみられません。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の教育委員会主催の勉強会やホーム内の勉強会、外部研修の研修報告会など研修の機会は多く設けられています。新人の採用時研修もマニュアルに従って実施されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東成区の4グループホームと自主的に2ヶ月毎に交流をし、情報交換や見学会をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者がある場合は職員が家庭訪問を行ったり、利用者や家族がホームに来訪したりして体験をしてもらうなど、家族や本人の不安を取り除き、安心して入居、サービスを受けられるように取り組んでいます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごし、学び支えあう関係を目指した支援を行っています。料理や手芸、生け花、写経などの場面ではそれぞれに得意な利用者がリーダーとなり先生役をこなし、元幼稚園の先生だった利用者がピアノ演奏をする場面もあり、利用者の得意な分野で家事や行事の機会を通して、学び支えあう関係を作っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の暮らし方の希望や思いを把握し、「宝物ノート」に記録しています。子供の頃父親に油絵を習った記憶がよみがえり、油絵をはじめ、風景画を完成させた利用者があります。昔住んでいた家の近くのお店や親戚の家に立ち寄る個別外出をした利用者もいます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の現在の暮らしや願い、心身の状況を把握し、医師や家族の意向を反映させて介護計画を作成しています。家族にも丁寧に説明し了解をとっています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のグループホーム全体会議でケース検討を行い、介護担当者が新設の「サービス経過記録表」で援助項目毎のモニタリングを毎月実施しています。ケアマネジャーは3ヶ月毎にサービス担当者会議を開き、モニタリング結果や家族の意見をいれて介護計画の見直しを実施しています。また状態の変化がある時はその都度見直しを行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の老健やデイケアセンターの音楽会や納涼祭、餅つきなどに参加をして楽しんでいます。家族の都合によってはかかりつけ医への通院介助を行っています。地域のボランティアの支援も受けています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は全員、入居以前からのかかりつけの医療機関の医療を受けており、必要な支援を行っています。協力医療機関と連携し、夜間や急変時の対応についての体制も整備されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、家族は入居前にホームでの看取りは実施しないとの説明を受けています。現在看取りの必要な対象者もいません。今後は医療連携の体制作りをしながら、家族の希望にあわせて看取りの実施ができるよう準備を進めていく予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。職員は採用時に個人情報の取り扱いについて法人と書面を取り交わしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと暮らせるよう支えています。職員が利用者を制止したり、急かしたりする言葉はなく柔軟な対応をしています。利用者の状態に合わせ、食事の時間やお風呂の時間などに柔軟に対応しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常朝食と夕食については調理済みの食材を併設の老健の厨房から取り寄せ、昼食については未調理の食材を食材業者から取り寄せてホームで調理をしています。利用者は食事準備、野菜の下ごしらえ、盛り付け、後片付け等の一連の作業に得意な分野で積極的に参加しています。月1～2回は好みのメニューで買い物から調理までの一連の作業にも利用者が参加し楽しんでます。職員は利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しくなごやかな雰囲気を作っています。月1回、出前寿司の日を設けて大変好評です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は通常週3回ゆっくり寛いだ入浴を楽しんでいます。季節によっては菖蒲湯等、行事風呂も楽しんでいます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は一日の生活の中で家事にそれぞれの役割を見つけ、分担し合いながら張り合いのある生活を送っています。特技を持っている利用者が多く、新聞を購読し、料理や手芸、生け花、写経、油絵、ピアノ演奏などを楽しみ、個人的に特別に訪ねたい場所に外出をするなどの支援をしています。またボランティアと一緒に歌や落語、楽器演奏を楽しんでいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は生き生きと毎日午前と午後の2回、3グループに分かれて公園や商店街、スーパーなどへの散歩と買い物に出かけています。季節の花見や博物館、植物園にも出かけ、以前住んでいた家の近くのお店や親戚の家へ立ち寄り、また漫才見物や喫茶店、美術館など、個人的な外出の支援もしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物6階にある2ユニットのグループホームの玄関ドアは開放され、エレベーターホールを經由して双方を周回できるようになっていますが、エレベーターは併設の老健の事情もあり電子ロックで施錠されています。利用者は散歩や買い物への外出を毎日2回行うとともに、利用者の状況に応じて見守りによる外出支援を随時行い、さらに博物館や植物園など普段行けない場所への外出の機会を増やすといった工夫をして、施錠による不安や閉塞感を和らげています。	○	今後、利用者の安全を確保しつつ、不安や閉塞感を更に減らすため、エレベーターの開錠方法などを職員間で話し合い、取り組んでいくことが求められます。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に備えるマニュアルを作成し、年2回消防署の立会いで避難訓練を実施しています。非常・災害時の食料品と水の備蓄も実施しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員の一日の食事摂取量と、水分管理の必要な利用者の水分摂取量を把握し記録しています。栄養バランスについては、併設の老健の厨房の管理栄養士よりアドバイスを受けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エレベーターホールや玄関には手芸作品や生け花、職員紹介の掲示があり、「バス停」と称する散歩希望者の待機場所が設営されていて、楽しく温かい雰囲気になっています。窓が大きく明るくて開放的なリビング兼ダイニングルームには季節の花や観葉植物があり、新聞や雑誌、キーボードも置かれ、寛げるソファもあり、家庭的で落ち着きと生活感のある空間になっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の前にはそれぞれ個性的な飾りつけがされ、入口にのれんが掛っている部屋もあります。ホームはベッドやタンス、椅子、テレビ、テレビ台を準備していますが、利用者は整理ダンス、仏壇、人形、自作の油絵や画台、新聞、家族の写真等、使い慣れた馴染みのある物を持ち込み、個性的で安心して生活できる空間になっています。		